

太宰府市短歌。ポスト第百期入選歌

(平成三十年十一月二十二日)

沈みゆく日を追ひかけて赤蜻蛉戦なき世の都府楼礎石

(横山 美恵子)

車椅子押して老母と参拝の天満宮の空澄み渡る

(白井 道義)

樟千年宮を守りて聳え立つ今朝も巫女等の落葉掃くなり

(土師 累徳)

あかつき 暁の社静けき千年の楠の葉舞つて朝露を踏む

(松尾 政子)

来て見れば観世の森にセミ時雨樹影でしばし涼をもらいぬ

(関本 美津代)

三柱の石碑静かに佇みて都府楼跡は秋風やさし

(西田 省三)

恋みくじ彼氏の出来ぬ妹に合格祈願と偽り渡す

(宮崎 夏帆)

くれない 紅に染まる木の葉に我が道を透かして思う長き何の日々

(本松 教恵)

眞夏日に樟の葉光るめがね橋何を願うか制服の子等

(和田 光香)

太陽に負けない光心待つ未来への道子宝祈願

(横山 里佳)

文月やオリンピックにまにあうか太宰府学とおもてなし英語

(中村 まさ子)

小・中学生の部

秋風に紅葉輝く町並や季節感じる鮮やかな空

(松尾 未来)

秋口の山のすそのださいふで友とかたらうしょうらいず

(首とう けい吾)

ださいふではなしかけられコリアンにこのおみくじはミドルハッピー

(端野 絵梨奈)

遊園地ハワイ風の夢破れ僕の心はオホーツク海

(高橋 カノン)